

認知症と向き合う

▶問い合わせ 高齢・介護グループ (☎05 5720)

急速に進む高齢化とともに、認知症の発症者数も増加し、2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症を発症するとも言われています。

身近な病気の一つとなっている認知症を現時点において、完全に治す治療法はありません。

しかし、早期発見・早期治療により、症状の進行を抑えることができます。

自分自身や家族に認知症の予兆があった場合にいち早く気付くため、そして、認知症を発症した方が暮らしやすい地域をつくるため、『認知症』がどのような病気であるか、知ることからはじめましょう。



認知症は、高齢者だけの病気ではありません

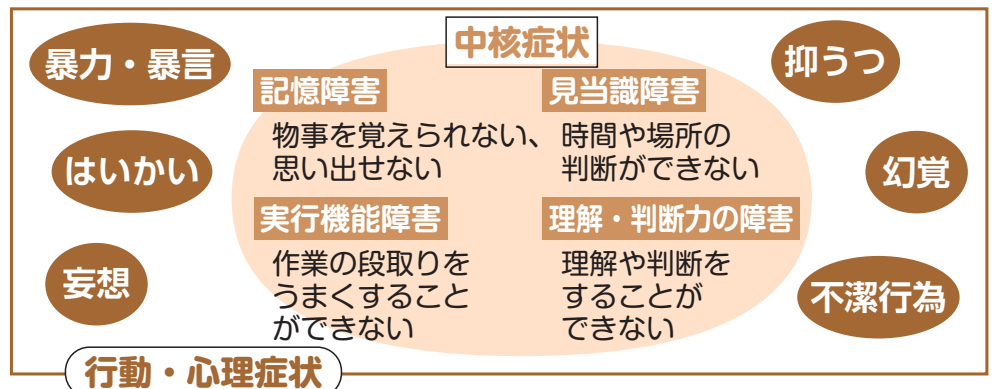
脳の細胞が死んでしまったり、働きが鈍くなることで、正常だった脳の機能が徐々に低下し、生活の中で支障が出ている状態を『認知症』といいます。

認知症を引き起こす原因はさまざまあり、アルツハイマー病や前頭側頭葉変性症、レビー小体病のほか、脳出血、脳梗塞などにより脳細胞に必要な栄養や酸素が行き渡らなくなったことで発症する場合があります。歳を重ねるほど、認知症が発症する可能性が高くなりますが、若くても脳血管障害や若年性アルツハイマー病などにより発症することがあります。認知症は、誰にでも発症する可能性がある『病気』なのです。

認知症を少しでも疑ったら

認知症には、『記憶障害』や『理解・判断力の障害』、季節や時間、場所などの把握が難しくなる『見当識障害』、計画を立てて行動すること

認知症の症状が見られた場合はすぐに相談を



とが難しくなる『実行機能障害』の『中核症状』と呼ばれる4つの基本的な症状に加え、本人の性格や環境などで表れる『行動・心理症状』があります。認知症の初期症状として、もの忘れによる失敗などが重なり、何かが